

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO 法人 ABC ジャパン

1 事業の趣旨・目的

外国籍住民の定住化が進み、日本語学習や多文化共生が地域の重要課題となっている横浜市鶴見区で、外国につながる子どもを対象とした日本語や学習支援等の地域活動を支える人材を育成し、コーディネーターとして必要な基本的な知識を得るために、日本語ボランティアおよび関連の活動に参加するボランティアを対象とした研修を実施する。

また外国人住民の参加を積極的に呼びかけ、バイリンガル・バイカルチュラルな人材を発掘し、地域活動を担う外国人住民を養成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月3日 14:00～ 16:00	NPO 法人 ABC ジャパン	橋本 秀吉 石原 結 富本 潤子 上運天トシオ 島村 昌男	・研修内容について ・受講生の人数について ・開催日と会場の最終確認	・講師から提出された研修内容について確認 ・開催日の日程と会場の調整と最終決定
10月7日 14:00～ 16:00	NPO 法人 ABC ジャパン	橋本 秀吉 石原 結 富本 潤子 上運天トシオ 島村 昌男	・前半の研修について ・受講生の人数について ・開催日と会場の最終確認	・前半の研修についての振り返り ・研修に対する受講生の感想や反響を確認 ・後半の研修に向けた課題の確認

【写真】



3 日本語教育事業の実施について

① 講座名 ボランティアを対象とした実践的研修

② 開催場所 NPO 法人 ABC ジャパン

③ 学習目標

外国人住民の定住化が進み、日本語学習や多文化共生が地域の重要課題となっている横浜市鶴見区で、子どもを対象とした日本語講座等の活動を支える人材を育成し、コーディネーターとして必要な基本的な知識を得るために、日本語ボランティアおよび関連の活動に参加するボランティアを対象とした研修を実施する。

また外国人住民の参加を積極的に呼びかけ、バイリンガル・バイカルチュラルな人材を発掘し、地域活動を担う外国人住民を養成する。

④ 使用した教材・リソース

講師が支援の現場で使用している教材や、他地域の実践の資料などを配布し、写真を多用したパワーポイントを使って口座を行なった。

⑤ 受講者の募集方法

NPO 法人 ABC ジャパンの南米コミュニティーを利用し、外国人住民へ直接呼びかけを行なったほか、鶴見区役所や鶴見国際交流ラウンジ等区内の関係者に呼びかけた。またメーリングリストなどを通じて横浜市内の国際交流・日本語支援の支援者や団体にも広く呼びかけを行なった。

⑥ 受講者の総数 93 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本人 59 人、ブラジル人 17 人、ボリビア人 3 人、ペルー人 2 人、フィリピン人 5 人、中国人 6 人、韓国人 1 人)

⑦ 開催時間数(回数) 23 時間 (全 10 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	6 月 17 日	2 時間	10 人	日本語(8 人)、ブラジル・ポルトガル語(2 人)	1 人	鶴見区に住む外国人住民と日本語
②	7 月 14 日	2 時間	8 人	日本語(8 人)	1 人	外国につながる子どもの現状(国際教室見学)

③	8月6日	3時間	9人	日本語(5人)、ブラジル・ポルトガル語(2人)、ペルー・スペイン語(2人)	1人	地域活動を担う外国籍住民の現状について
④	9月17日	3時間	7人	日本語(2人)、中国・中国語(3人)、ボリビア・スペイン語(2人)	1人	鶴見のエスニックコミュニティについて
⑤	11月18日	2時間	12人	日本語(8人)、ブラジル・ポルトガル語(4人)	1人	「気になる子ども」についてのケーススタディ
⑥	12月12日	2時間	9人	日本語(6人)、中国・中国語(2人)、フィリピン・タガログ語(1人)	1人	外国につながる子どもの日本語習得と居場所づくり
⑦	1月21日	3時間	10人	日本語(6人)、ブラジル・ポルトガル語(3人)、ボリビア・スペイン語(1人)	1人	外国人支援のネットワーク構築と情報提供
⑧	2月24日	2時間	8人	日本語(4人)、ブラジル・ポルトガル語(2人)、中国・中国語(1人)、韓国・韓国語(1人)	1人	ガイドブックを活用したサポーター派遣の研修
⑨	2月28日	2時間	11人	日本語(7人)、ブラジル・ポルトガル語(2人)、フィリピン・タガログ語(2人)	1人	外国につながる子どもの人権と学習保障
⑩	3月8日	2時間	9人	日本語(5人)、ブラジル・ポルトガル語(2人)、フィリピン・タガログ語(2人)	1人	外国につながる子どもを支えるために～まとめ・発表～

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

当団体の事務所だけでなく、小学校や国際交流ラウンジなど、外国につながる子ども支援現場でも開催し、講座の中でも取り組みについて紹介することができた。

また、現場で直接外国につながる子どもにかかわり、現状や課題を熟知している講師を依頼することで、指導のポイントや工夫などを学ぶことができた。

実際に外国につながる子ども支援に関わる参加者も多かったため、講座方式だけでなく、

アクティビティやグループワークを取り入れ、受講者同士意見交換を行なったり、グループ毎に発表を行なったりした。



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

鶴見区では、日本生まれの外国につながる子どもが増えており、初期日本語指導よりも、教科につながる指導のニーズが高まっている。しかし、教科につながる日本語指導については、まだ指導方法も体制も確立されておらず、現場に関わる支援者の手腕に頼っているのが現状である。

その中で、今回の講座では知識を高め、よりよい支援をしたいという支援者に参加を呼びかけることができ、講座の目標は達成できたと考えている。また、受講生同士が知り合い、地域の中での今後の連携の可能性を模索できたことも成果だと考えている。

② 学習者の習得状況

小中高校、日本語教室、学習支援教室、ラウンジ、地域などそれぞれで活動し、その中で課題を感じとっていた受講生が集い、外国につながる子どもの諸課題について異なる視点から取り上げた講座を受けたことで、今後の活動の質向上につながる結果を残すことができたと考えている。

② 日本語教室設置運営の効果、成果

今回の助成を受け、普段はそれぞれの活動で忙しい受講生が集まり、学び、意見交換する場を設けることで、お互い顔の見える関係が築けたことは一番の成果だと考えている。同じ家族でも子どもと保護者を別々の支援者が関わっていたケースなどで、支援者同士が連携することで、子どもの学習に対する意欲を引き出すことができるなど、学習の基礎となる環境整備まで踏み込んで議論する講座を開催することができたのも成果である。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の講座は、多文化共生を地域の特色として打ち出している鶴見区役所や、地域の小

中学校からの協力も得て開催することができた。また、当団体はポルトガル語、スペイン語を中心に南米コミュニティに対する支援を行ってきたが、今回の講座では他の言語圏からの参加もあり、地域の外国人コミュニティとの連携の足がかりも築くことができた。

⑤改善点, 今後の課題について

外国につながる子どもの課題は、以前深刻で、ボランティアだけが関わっても、日本語や基礎学力を向上させることは難しい。今回の講座で明らかになった外国につながる子どもの地域課題の解決のために、学校や教育委員会との更なる連携の必要性が明らかになった。